

日本結核病学会近畿支部学会

—— 第102回総会演説抄録 ——

平成20年12月13日 於 大阪国際会議場（大阪市）

（第72回日本呼吸器学会近畿地方会と合同開催）

会 長 東 田 有 智（近畿大学医学部呼吸器・アレルギー内科）

—— 一 般 演 題 ——

1. 神戸市での結核菌バンク事業において中学1年時の感染が判明した21歳男性の肺結核の1例 °藤山理世・田中賀子・樋口純子・白井千香・河上靖登（神戸市保健所）岩本朋忠・園部俊明（神戸市環境保健研究所）

Gaffky 5号, r II2。車整備工。入院時、母との面接で、過去の居住歴を保健師が聴取。神戸市の結核菌バンク事業で遺伝子型別分析のデータベースの中から2年前に分析していた菌株との一致を確認した。

2. 肺結核接触者定期外職員健診151例の報告 °竹中雅彦・森 亜子・児島正道・折田 環・石村さおり・吉岡展睦・新 康憲・萩原裕子・春藤和代（宝塚市立病 ICT）松田良信（同呼吸器）

平成20年6月からの感染症法に基づく結核の接触者健康診断の手引き（改訂第3版）においてQFTが推奨されている。平成19年3月当院内科入院中の患者から感染危険度係数7.5の排菌陽性例が発生した。接触者リストは職員151名。ツベルクリン反応20mm以上あるいは胸部レントゲンにて異常所見ありをQFT対象者とし、81名に施行した。陽性10名、判定保留5名、陰性66名であった。1年以上経過したが結核発症者なく、観察中である。

3. 当院における抗酸菌症症例の検討—肺結核症を中心に— °八木一之（ツカザキ病呼吸器）宇野順三郎・塚崎義人（同内）阿部さやか・坪田典子・中田千景・鷺沢 薫・天野久美子・内海亜生・岸本健太郎・山本貴久（同検査）

2003年6月、呼吸器科開設以来の5年間の症例を検討した。肺結核症：33例。結核性胸膜炎：6例。頸部リンパ節結核：1例。肺結核症のうち排菌例（PCR含む）は24例で、入院中であった症例は10例。18例は有結核病床病院に転院し（うち、当院入院中であった症例は9例）、6例は外来で加療した（うち、当院入院中であっ

た症例は1例）。院内感染の発生は認められなかった。非結核性抗酸菌症：46例。*M.kansasii*の2例は治療にて軽快。MAC症のうち2例は肺癌の疑いにて手術施行。MAC症のうち、本格的な内科的治療を行ったのは6例で、2例を除き改善が得られている。

4. 結核性大腿骨転子滑液包炎で発症した肺結核の1例 °右田尊史・田中小百合・久下 隆・米田和之・岡村英生・塚口勝彦・田村猛夏（NHO奈良医療センター内）藤間保晶・森下 亨・島屋正孝（同整形外）

他院にて関節リウマチで通院中に左大腿部に腫脹、熱感が生じ搔破術を施行された。膿汁より結核菌PCR陽性、塗抹陽性が認められた。その後、喀痰より塗抹陽性の肺結核の1例を経験したので治療経過も含め若干の考察を加え報告する。

5. 汎血球減少を呈し、骨髓検査により診断した急性経過の粟粒結核の1例 °池添浩平・田中栄作・櫻本稔・羽白 高・水口正義・橋本成修・安田武洋・佐藤栄三郎・加持雄介・福永健太郎・田口善夫（天理よろづ相談所病呼吸器内）橋本典論（同血液内）

84歳男性、微熱で受診。来院時は空洞影のみであったが急速に粟粒影が出現し、骨髓塗抹染色より粟粒結核と診断した。

6. 粟粒結核の1例 °岩崎理一・藤井 宏・奥田千幸・金田俊彦・久保田未央・金子正博・富岡洋海（神戸市立医療センター西市民病呼吸器内）

80歳女性。37.9℃の発熱あり救急外来受診。胸部X線、CTにて両肺びまん性の粒状影を認めた。喀痰、胃液、気管支鏡下生検で結核菌の検出不いも、粟粒結核に矛盾せず、治療開始。一時ARDS様になり、呼吸状態悪化するもその後軽快。当院の粟粒結核症例をまとめて発表する。

7. 肺 *M. marinum* 症と考えられた1症例 °矢木泰弘・林 清二・坂谷光則（NHO近畿中央胸部疾患セン

ター内) 露口一成・鈴木克洋(同臨床研究センター)
富田元久(同検査)

症例は81歳男性。主訴は体重減少。既往にリンパ節結核、副鼻腔炎あり。胸部CTにて中葉舌区に気管支拡張像、両肺野に小結節影および融合像あり、喀痰からは繰り返し *M. marinum* の大量排菌を認め肺 *M. marinum* 症と考えた。*M. marinum* の呼吸器感染症は稀であり文献的考察を含め報告する。

8. クラリスロマイシン、シプロフロキサシン投与中に増悪した *M. abscessus* 症の1例 °川口 俊・宮本奈津子・洲鎌芳美・白石 訓・寺川和彦(大阪市立北市民病呼吸器)

45歳男性。抗酸菌塗抹検査は±、PCRは結核、MACともに陰性。INH, RFP, EB開始。*M. abscessus* が同定されCAM, CPF, MEPMとしたが1カ月後MEPMの中止後に増悪。AMK, MEPMの投与で改善をみた。

9. *Mycobacterium celatum* による脊椎炎、肺膿瘍の1例 °樋上雄一・中川和彦・森山あかり・玉里滋幸・小島真由美・片倉浩理・酒井直樹・山中 晃(大津赤

十字病呼吸器)

77歳男性。肝悪性リンパ腫治療後。歩行障害、膀胱直腸障害が出現しMRIにて脊椎炎による脊髄圧迫症状と診断。その後、炎症波及による肺膿瘍の形成を認め、喀痰および椎体病巣より *M. celatum* が検出された。今回、われわれは非定型抗酸菌 (*M. celatum*) による脊椎炎・肺膿瘍を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する。

10. 胸部異常陰影を呈したイヌ回虫症の3例の検討

°本津茂人・山本佳史・児山紀子・早川正樹・櫻井正樹・小林真也・山内基雄・玉置伸二・友田恒一・吉川雅則・木村 弘(奈良県立医大内科学第二講座)濱田 薫(同看護学臨床病態医学)吉川正英(同寄生虫学)

症例は男性1例、女性2例。胸部異常陰影を呈し、当科を受診。好酸球増多を2例、高IgE血症を全例に認めた。全例に疑わしい食歴はなく、室内犬の飼育歴があった。1例に関節痛、2例に乾性咳嗽を認めた。1例は自然治癒した。昨今のペットブームにより室内犬飼育の機会が増加しており、注意すべき疾患と考えられた。